

第 22 回日本機能水学会学術大会 大会長挨拶

テーマ：機能水とワンヘルス・SDGs

佐藤 勉（東海大学医学部・（公財）ルイ・パストゥール医学研究センター）

この度、第 22 回日本機能水学会学術大会の大会長を拝命いたしました。昨年は鶴 知光先生のご尽力により、素晴らしい学術大会・技術交流会が開催されました。今回は東京の長井記念館が会場となります。本記念館での開催は過去に何度かありますので、ご存知の方も多いかと思えます。しかし会場の近辺、特に渋谷駅周辺の変貌には目をみはるものがあります。会場に向かう途中で、新しい発見があるかも知れません。是非会場にお越しいただき、大会を盛り上げていただきたいと思います。

先日、「SDGs が危機に瀕している」という新聞記事が目にとまりました。記事は新聞社のインタビューに応じた国連事務次長補の話に掲載したものでしたが、17 の目標の中で評価可能な約 140 の小項目のうち、「順調に進んでいる」のは 15%にとどまっているという内容でした。その低さに驚くと同時に、世界各地で頻発する戦争、止まらない環境破壊や気候変動などを考えると当然の結果とも思いました。また、日本では SDGs の認知度は高いが、国別達成度ランキングは 2017 年の 11 位から 2023 年には 21 位に後退したという記載もありました。順位の低下だけでは詳細を知ることはできませんが、先の 15%という数字から推測すると、我が国の SDGs はかなりの危機的状況ではないかと思われまます。SDGs は人間が作成した目標ではありますが、その実現にはワンヘルス、すなわち人間、動物そして環境を一体的に捉える必要があることは言を俟ちません。

機能水は日本で生まれた言葉（概念）ですが、これまでに様々な機能水が研究・開発されてきています。これらの機能水は医療、農水産業や食品衛生分野などその活用は多岐にわたっています。なかでも電解水は、「品質（生成原理）、生成機器と生成水の規格」「有効性」「安全性」のいずれにおいても科学的根拠が明確に提示された機能水です。そして生体（人間、家畜など）や環境に優しいことから、SDGs やワンヘルスの観点からもさらなる活用が期待されています。そこで電解水をはじめとする様々な機能水のさらなる可能性を求めて、今回のテーマを「機能水とワンヘルス・SDGs」とさせていただき、準備をすすめているところでございます。プログラムとして、招待・教育講演のほかに理化学技術セッション（第 91 回ウォーター研究会）、一般演題セッション、国際セッション、大会長講演を予定しております。皆様の参加を心よりお待ちしております。